

浄心寺だより

発行
浄心寺門信徒会

郵便番号714-0081
笠岡市笠岡2065
電話(0865)62-2623
FAX(0865)62-2595
振替01260-9-13760
<http://joshinji.suki-ari.net/>



「み法を味わって」(吳)

平均寿命

毎年、平均寿命が発表されます。昭和二十年代に五十歳を越え、三十年前後には六十歳、五十年前後には七十歳を越えました。今では男八十歳、女八十五歳を越えました。そう聞くと頭の中で計算する人がいます。三十歳の人はあと五十年、五十歳の人はあと三十年ダナと。ところがこの計算は間違いです。これが成り立つためには全員が八十歳まで死なないで、八十歳になつたら一斉に死なねばなりません。実際は九十、百歳まで生きる人もいれば、三十、四十歳で死ぬ人もいるのです。

私たちは、今日の仕事を明日に、あさつてにと順送りすることはできません。しかし命を順送りすることはできないのです。だからこそ本当に、自分の生まれてきた意味をまず知らなければならぬ、今こそ知らなければならぬ、明日では遅いのです。

そのためにはまずお寺へ参つて仏法を聴聞しなくてはなりません。生まれてきてよかつたと送る人生なら、五年、十年でも充実した人生です。

鷹谷俊昭『月ごとのことば』転載

宗祖降誕会

五月十七日(土) 十三時から

- ・コール清風ミニコンサート
- ・チャリティコンサート
- ・落語(笑福亭生喬 師匠)

※門信徒総会(同日十一時より)

ごあんない



春季彼岸会・永代経法要つとまる

三月十八日快晴の中、十三時半より春季彼岸会、門信徒総追悼永代経法要が勤まりました。

一同で阿弥陀経をお勤めした後ご法話を拝聴。講師は高梁市、浄福寺住職の山下瑞円師でした。

「今、この救い、命の行き先」と題してお話いただきました。

『阿弥陀経』や『観無量寿経』には、臨終来迎の思想がみられます。これは、臨終に際して阿弥陀さまがお迎えに来て下さる、とい

う考え方です。これには条件が付いています。それは「一心不乱に念仏を称え続けなければならぬ(執持名号：一心不乱)」です。果たして日常生活の中で、私たちにこれができるでしょうか。

お釈迦さまがこのように説かれたのは、「誰もが救われる」と言われてもピンとこない者のためでした。先生はかつて高校球児として野球に打ち込んできました。そこは努力しただけ報われる世界です。そんな人には、何もしなくても救われるというものは信じ難いことです。そういう人に阿弥陀さまの世界を信じてもらうための方便だったのです。

一方、『無量寿経』には条件のない救いが説かれます。死に際の良し悪しを問わない救い、それが「今、この救い」となります。行き先が定まっているという安心をいただくのです。お念仏には阿弥陀さまの「まかせよ、必ず救う」という願いが込められているのです。

み教えの味わいをご自分の言葉で語っていただき、一同共感のうちに散会となりました。

外を見ると激しい風雨となっており、最近の天候不順を感じながら帰途につきました。

やさしい仏教講座

第30回 4月8日(まとめ)

※ 前回の参加者がわずかだったため、今回も前回と同じ正信偈中の曇鸞大師についての四句を、この個所の紙芝居と佐々木閑先生のお話でみていきました。

『森永卓郎さん』

テレビ「かつちりマンデー」出演でも知られる同氏が一月亡くなりました。「御堂さん」一月号の取材記事をみました。

く、これを信じる者は誰もがそうなる、それを希望として現在をしっかりと生きてゆく。森永さんはこうした世界を信じることによって、やりたいうことをやるう、という「悟りを得た」というのです。亡くなる直前まで本やテレビで言いたいことを発信し続けた森永さんでした。

『焼香の仕方』

本願寺派の焼香の作法を、動画を見ながら確認しました。

そもそも焼香は、よい香りを身にとつてから仏さまにお参りする、という身だしなみとしての作法です。

他宗派や他宗教の葬儀の時には、自分の宗派の作法でお参りするのがよいでしょう。



川柳

永遠に平和へ着席を願う

藤井智史

笠岡を歩く

歴史散歩(5)

長安主一

貫閲講堂(2)

国民学校の講堂として建てられた貫閲講堂だが、収容人数三千人をほこる施設は地域唯一で、昭和五十年に市民会館が開館するまでは、市民の集いや行事の場としても親しまれた。



建設資金は笠岡出身の実業家、佐藤貫一の個人寄付で賄われた。総額七万七千五百円。二千円あれば豪邸が建つと言われた時代の話である。落成式は笠岡町あげてのお祭り騒ぎだった、というのもうなずける。

貫閲講堂の名の由来は、佐藤への感謝状に記された漢文の一節「松柏緑貫四時閱千載(松柏の緑は四時を貫き千載を閱(けみ)する)」によるとされるが、佐藤夫

妻の名である「貫一」と「悦子」にちなんだものでもあつたらう。明治生まれの佐藤貫一は若くして中国大陸に渡り、醤油、酒、製粉などの会社を興して財をなした。南京商工会議所会頭などの要職を歴任し、大陸における在留邦人の重鎮として活躍した人物である。何十年も前に離れた故郷への莫大な資金提供は、氏の望郷の思いを偲ばせる。

しかし昭和二十年の敗戦により、佐藤が大陸で築いたすべては水泡に帰す。失意の中帰郷した彼に、故郷笠岡はあまり温かくはなかったという。町役場の一室で引揚者の援護事務作業に肅々と取り組む姿は、見ていて胸の痛む思いであったと語る知人もいる。その後、笠岡を離れた佐藤は、昭和三十九年、長男のいた大阪で逝去、行年七十五歳であった。墓碑は伏越、地福寺にある。

川柳

ヨオツヨオツと火曜日の不燃物

藤井智史

研修旅行のご案内

6月17日(火)

に京都、大谷本廟に参拝します。その後、八坂神社近くの「いもぼう」で昼食。周辺で散策や買い物など楽しんでから帰途につきます。



参加費は1万円。本廟に分骨希望の方は5月10日(日)までにお申し込みを(別途費用必要)。

それ以外の方の締め切りは6月3日(火)です。

お盆参りの中止について

おととしから各家を回るお盆参りは中止にし、お寺での「お盆法要」にお参りいただいています。お盆法要は八月十四日九時、十一時、十四時、十五日十時、十四時におつとめします。いずれかにご参拝ください。

ご自宅へのお盆参りをご希望の方は、六月二十五日までに浄心寺までお知らせください。調整して後日、日程をお知らせします。

ヨギじませんか?

毎週金曜日、朝10時半から1時間。毎回でなくても、気の向いたときに参加しても大丈夫です。浄心寺聚園(和室)にて。



編集後記

目には青葉、山ほととぎす初鰯の季節になりました。

春季彼岸会・永代経法要等の報告、降誕会、研修旅行、サマースクール等のご案内をお知らせする第151号をお届けいたします。

季節の変わり目、お体には十分お気をつけ下さい。

(編集委員 釋賢大)

令和7年度 門信徒会会費納入のおねがい

本年度会費納入をお願い申し上げます。納入につきましては、地区委員さんを通してか、地区委員のおられない地区の方をご参拝の折、あるいは同封の郵便振替でお願いいたします。

門信徒会費は年額 **2,000円**として、それ以上の御懇志の方には金額を限定しておりません。(会計)